

私のお母さん

小 六

私のお母さんは、私を命がけで産んでくれました。お母さんは私を産んだ後に、あの病気にかかってしまったのです。でも、いまだに治す方法がないのです。

私は、そのことを初めて聞いたとき、申し訳ないことをしたなと思いました。なぜなら、私が生まれてこなければお母さんは病気にならなかつたからです。私は心の中でごめんなさいと思いました。その後も思いを引きずりながら毎日を過ごしていました。

そんな冬のある日、買い物から帰ってきたお母さんが手袋をはずしたとき、その手

を見るとむらさき色になっていました。気になってお母さんに聞いてみると、

「それは血管が収縮することで起こる病気の一つのしょう状だよ。」

と言われました。私はそのことを聞いて、心の中でやっぱり生まれてこないほうがよかったのかなと思い、ショックでした。私のせいでお母さんが傷ついたり、苦労したりしていると思うと、申し訳ないと思いました。

それからしばらくして、お母さんがまた手を気にしていたので見てみると、お母さんのつめの後ろの皮ふがめくれています。なんでそうなっているのか思い切って聞いてみると、

「血流が悪くなって起きる病気の一つのしょう状だよ。」

と言われました。そのことを聞いて、生ま

れてこなければよかったという思いが前よりもっと強くなりました。

私はある日、お母さんに病気になってシヨックだったのか聞いてみました。お母さんは、

「全然そんなことないよ。」

と言いました。私はどうしてそんなふうにしたのかとても気になりましたが、聞きませんでした。その後も聞かないようにしていました。ある日、がまんができなくなったので、思い切って、どうして病気になったのにシヨックじゃないのか聞いてみました。すると、

「あなたが生まれてきてくれたからだよ。」
と言われました。それに加えて、

「あなたの顔を見て、とても幸せな気持ちになったからだよ。」

とも言われました。私は、この言葉を聞いて

て、少し気持ちが軽くなり、うれしくなりました。私は、このことから、命の大切さを学びました。

ニュースを見ていると、殺人事件や暴行事件などいろいろなことが世の中で起こっています。みんなそれぞれのお母さんが一生けん命産んでくれたり育ててくれたりした命を、大切にしないのはおかしいと思います。私はそのような行いをする人たちが許せません。そういう人たちには、もっと命について考えてほしいのです。

私はこのような体験から、命をもっと大切にしないではいけないと心から強く思いました。そして、私はたくさんの人に自分の命、他人の命を大切にしてほしいと思います。